教育開発機構

NEWS LETTER 2022.Mar.vol.12

2021年度 都市大・教育フロントランナー賞（TCU-EFR賞）

テーマ「これからのWithコロナ時代に残したい、教育手法・場作り」

FD推進センター長　伊藤 通子

昨年からのコロナ禍により遠隔授業の機会が増え、本学では各教員がそれぞれに創意工夫をこらした素晴らしい授業が多数行われるようになりました。

そこで今年度のTCU-EFR賞は、この貴重な体験をwithコロナ時代の授業実践に活かすため、本学の教育改善に資する教育設計・実施を行った教員または教員グループに授与することとなりました。

各学科より推薦があった15授業の中から、以下の通り、受賞が決まり、2月21日学長室にて表彰式が執り行われました。

TCU-EFR賞		受賞者と受賞授業（所属）
ICT活用優秀賞	「ICT活用によるインタラクティブな対話型授業」	横山 草介（人間科学部 児童学科） 1年生 教育学概論
授業評価優秀賞	「学生を伸ばし到達目標に導く形成的評価」	高橋 哲男（共通教育部 人文・社会科学系） 2年生 数学教育法（2）
授業デザイン優秀賞	「ICTツール活用と海外連携で授業の国際化を実現」	沖浦 文彦、山根 格、林 和眞、斉藤 圭 、川口 和英 （都市生活学部 都市生活学科） 3年生 プロジェクト演習
科目デザイン優秀賞	「学習科学に基づくシートを活用した科目設計」	関口 和真（理工学部 機械システム学科） 3年生 制御理論
FD貢献優秀賞	「教育的な意図をもつ学習活動で構成した授業」	高橋 哲男（共通教育部 人文・社会科学系） 2年生 数学教育法（2）
FD貢献優秀賞	「複数カメラを有効に教育活用した授業」	大塚 習平（人間科学部 児童学科） 1年生 保育内容の理解と方法（造形表現）

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

教育開発機構　2021年度を振り返って

副学長・教育開発機構長　大上 浩

2021年度は感染症対応の二年度目となり、対面授業とハイブリッド授業の対応を感染状況に応じて変更するなど、変化の激しい年度となりました。昨年度の経験もあり、教職員・学生とも比較的スムーズに対応できたかと思います。こうした状況の中で教育開発機構の活動も、ある程度落ち着きを取り戻し、これまで進めてきた教育改革の施策を堅実に進めることができたのではないかと思います。

詳細については各室長・センター長から、個別に報告がありますので、ここでは一部を挙げてみたいと思います。数理・データサイエンス教育センターでは、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の申請を行い、本学の取組が認定されました。また、新学部の設置に伴い、教育体制の変更が予定される中、企業との連携やテキストの開発など将来に向けた展開が進められています。FD推進センターでは、年度を通じて多様なFD活動が活発に推進され、その中にはティーチングポートフォリオやFD・SDフォーラムでのハラスメント研修など、新たな視点が導入されました。また、教育フロントランナー賞（EFR賞）は教育改善に直接結びつく活動として継続しています。教育アセスメント室では成績の基準化などこれまでの懸案の整備に加え、TCU-FORCEにもつながる「都市大力」指標の開発という新たな一歩を踏み出しています。ICT戦略室では大きく変容した教育環境の中、全学的なPCの必携化、Zoomにより録画した講義動画の取り扱いなど、これまでにないシステムの構築を検討していただいています。また、大学評価室との連携により、来年度以降の自己点検評価への体制も整えています。

こうした活動を支える教職員の方々には多大なご協力をいただいており、大変感謝しています。さらなる教育改善・改革の推進のため、教職員一同、さらに実りのある活動を続けていきたいと考えています。皆様のご理解、ご協力をいただけますようお願いいたします。

▶ 2021年度　教育開発機構　構成教員一覧

教育開発機構

	名　前	所　属
機構長	大上　浩	副学長（総括・教育担当）
副機構長	永江　総宜	都市生活学部 都市生活学科
	伊藤　通子	教育開発機構
	京相　雅樹	理工学部 医用工学科
機構全体又は特定の任務	岩尾　徹	理工学部長

数理・データサイエンス教育センター

	名　前	所　属
センター長	向井　信彦	情報工学部 情報科学科
副センター長	河合　孝純	教育開発機構
室員	大鳥　靖樹	理工学部 原子力安全工学科
	山口　敦子	教育開発機構
	髙橋　弘毅	教育開発機構
	関屋　英彦	建築都市デザイン学部 都市工学科
	中野　秀洋	情報工学部 情報科学科
	岡田　公治	環境学部 環境経営システム学科
	広田すみれ	メディア情報学部 社会メディア学科
	西山　敏樹	都市生活学部 都市生活学科
	松橋　圭子	人間科学部 児童学科

FD推進センター

	名　前	所　属
センター長	伊藤　通子	教育開発機構
副センター長	栗原　哲彦	建築都市デザイン学部 都市工学科
室員	星　義克	情報工学部 情報科学科
	山田　盛朗	共通教育部 人文・社会科学系
	丹羽由佳理	環境学部 環境創生学科
	沖浦　文彦	都市生活学部 都市生活学科
	渡邉　力夫	理工学部 機械システム工学科
	杉本　裕代	共通教育部 外国語共通教育センター

教育アセスメント室

	名　前	所　属
室　長	京相　雅樹	理工学部 医用工学科
副室長	西村　太樹	理工学部 自然科学科
室　員	小林　志好	理工学部 機械工学科
	髙津　淑人	理工学部 応用化学科
	広田すみれ	メディア情報学部 社会メディア学科
	畑　和樹	共通教育部（外国語）

教育開発室

	名　前	所　属
室　長	岸本　喜直	理工学部 機械工学科
副室長	五艘　隆志	建築都市デザイン学部 都市工学科
室　員	杉浦　正吾	教育開発機構
	岸　和幸	教育開発機構
	瀬戸久美子	教育開発機構
	羽倉　尚人	理工学部 原子力安全工学科
	門多　顕司	理工学部 自然科学科
	坂倉　杏介	都市生活学部 都市生活学科

ICT戦略室

	名　前	所　属
室　長	横井　利彰	メディア情報学部 情報システム学科
副室長	安井　浩之	共通教育部 自然科学系
室　員	兪　明連	情報工学部 情報科学科
	中野　秀洋	情報工学部 情報科学科
	馬場　健司	環境学部 環境経営システム学科

数理・データサイエンス教育センター　2021年度の総括

数理・データサイエンス教育センター長　向井 信彦

2021年度における数理・データサイエンス教育センターの活動報告を致します。本学における数理・データサイエンス教育は2020年度から始まり、2021年度は2年目の年度になります。本センターでは「データサイエンスリテラシー(1)、(2)」を全学部向けに開講すると共に、数理・統計科目のない学部向けに「文系のための数理基礎及び統計基礎」を開講しています。2020年度は情報工学部で「データサイエンスリテラシ(1)、(2)」が履修できず、学科開講科目で代替していましたが、2021年度からは情報工学部を含めて全学部で履修可能となりました。

数理・データサイエンス教育プログラムの2020年度実績を、数理・データサイエンス・AI教育プログラムリテラシーレベル(MDASH-Literacy: Approved Program for Mathematics, Data Science and AI Smart Higher Education Literacy)に申請し、認定されました(認定のロゴマークを図に示します)。

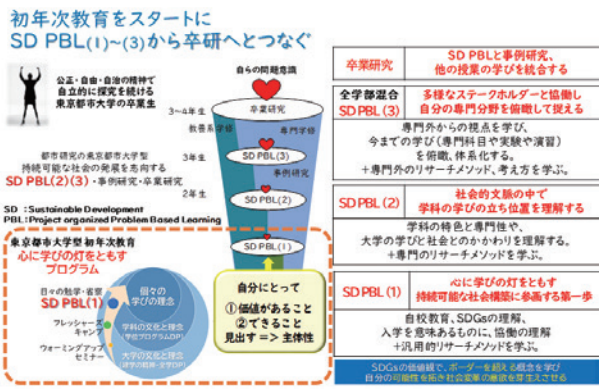
本センターで開発してきました「データサイエンスリテラシー(1)」の講義資料を様々な教育現場での活用を目的としてホームページで公開しています。また、講義資料は本学も参画している数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムや、世田谷PF事業として開講した「ビジネスキャリアデザイン講座・データサイエンス入門(1)」にも提供しています。今後も授業評価アンケートや学外連携を通じてデータサイエンス教育に貢献していく所存です。

教育開発室　2021年度の総括

教育開発室長　岸本 喜直

2021年度は「教育施策に関する基本方針 2020」を確実に推進していくために、主に全学部学科横断の必修科目であるSD PBL(3)の準備とウォーミングアップセミナーの検討を、大上機構長ならびに伊藤副機構長にご支援いただきながら実施しました。SD PBL(3)の準備では、まずグランドデザイン研究会を立ち上げて、科目の内容のみならず、教室の配当や成績の担当方法など、関係各所のご協力をいただきながら進めてまいりました。11月下旬には科目担当教員向けの打ち合わせ(SD PBLデザイン研究会)を開催するに至り、2022年度からの開講に目処が立ちました。ウォーミングアップセミナーは、推薦系入学者に限定して2月頃に開催している入学前ワークショップを移行して全入学者向けに展開するものです。SD PBL(3)を初年次教育にフィードバックし、本学の教育理念である「ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる」の体現を目指します。

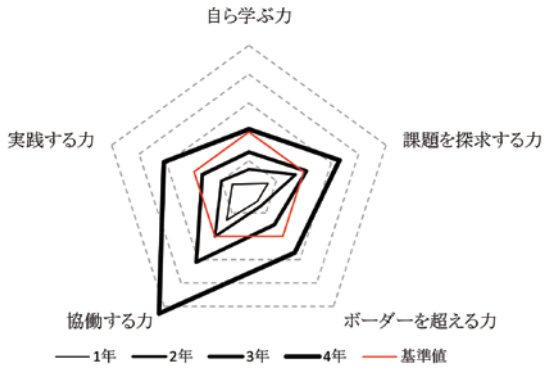
これらのほか、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム推進の支援や、教育のデジタライゼーションとデジタルトランスフォーメーションの動向調査など、次の5年、10年を見据えながら、本学の教育を盛り上げるための事業を提案してまいります。教職員の皆様におかれましては引き続き御協力くださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



教育アセスメント室　2021年度の総括

教育アセスメント室長　京相 雅樹

今年度当室で扱った案件は、教育施策2020に含まれる施策の具体的な実施と改良および卒業研究用標準ルーブリックの検討に端を発する「都市大力」評価枠組みの整備です（詳細は本誌7ページ参照）。教育施策2020関連ではまず、保留制度が今年度から実施となりました。実施にあたり成績提出や修正のスケジュールを綿密に検討する必要はあったものの、これまでのところ、大きな問題なく実施することができております。今年度の実施結果を踏まえ、来年度に向けた改善を行う予定です。教育施策2020関連では他に、すでに昨年度後期から実施している成績の基準化について、実施内容の改定とさらなる改良の検討を行いました。今年度は科目登録時に基準外となった科目に求められるコメント入力を適正化する目的で、基準化の適用が不適切と思われる科目を除外した上で実施しました。また除外とする科目の基準見直しを検討し、新しい除外の基準を来年度から適用することにしています。「都市大力」評価枠組みについては、全学ディプロマポリシーを充足するために必要な知識や能力の具体的な定義や評価基準、および教学マネジメントにどのように活用するかについての検討を行いました。またTCU-FORCEのシステム更新が行われることから、これに合わせて図に示すようなイメージで成績を可視化し、学生個々の成長を促す仕組みづくりを開始しました。2023年度入学生からの適用を目指しています。



ICT戦略室　2021年度の総括

ICT戦略室長　横井 利彰

今年度も、情報環境の継続的な改善（オンライン授業環境の支援・拡充、授業収録による復習環境整備等）について、皆様にご協力頂きながら推進して参りました。引き続き、本学で行われている授業形態に則した授業収録環境の改善に向け、活動を進めてゆきます。また、改正著作権法第35条運用指針に沿い、SARTRASや各種団体および客員教授宮林正恭先生の助言を得て遵法支援を行いました。

教育研究ソフトウェア活用支援においては、教員、大学院生、学部生向けMATLAB講習会（活用入門、ディープラーニング入門）を実施し、次年度はRaspberry Pi等とMATLABとの連係セミナーを企画中です。剽窃・盗用検知ソフトウェアTurnitinは、適切なレポートの作成・評価支援ツールとして、教育の質向上に資するものであることから、次年度も説明会・懇談会等を適切に実施し活用を支援したいと考えます。以上の他に、本学の理念・実情に則したLearning Analytics（LA）の導入に向けて、マイルストーン策定や試験的な導入も検討しています。LAは教育DXの重要な要素であり、学習の「状況把握（統合的可視化）」、「予測（過去事例による傾向）」、「推察（要因推定）」、「支援（学習軌道の修正誘導）」から成ります。本学の特質に合った適切な実現のためには、出欠状況、予習・復習状況、小テスト・レポート評価、授業内活動の情報を集約し、本学の教育目標と具体的授業実施内容の深い理解の下で、適切な支援につなげる必要があります。そのためには、データ同化による学習モデル推定等も行いながら、実現に向けて関連部署との連係を進めたいと考えております。

今後もICTの視点から、教育に関する外部環境の変化に対応できる適応能力を重視しながら活動を進めたいと思います。ご協力のほどお願いいたします。

FD推進センター　2021年度の総括　―「場」を創る―

FD推進センター長　伊藤 通子

2021年度もコロナ禍に翻弄された教育界でした。しかしながら、時代や状況によって方法が変わっても、私たちが考え続けなければいけない教育や学びの本質は、変わるものではないのではないでしょうか。FD推進センターは、このような時代に何をすべきなのかを模索し続けていますが、徐々に明確になってきたのは、私たちが提供すべきは「場」であるということです。

2021年度は、「ICTツールの基本的な使い方講習」「新任者研修」「教育フロントランナーに学ぶ」「教育サポートスタッフ研修」「全学授業相互参観週間」「自校教育をどう教えるか」「学生FD委員と教職員の懇談会」「都市大版TP作成ワークショップ・活用ワークショップ」「全学FD・SDフォーラム」など、ほぼ毎月1-3回のFDを開催しました。そして、今号の表紙を飾った「TCU-EFR賞」の実施も担当しました。

FDの内容に関しては、教育や学びに関する理論や方法論は良書がたくさん出ており、専門家による優れた研修会も、日本全国の至るところで開催されています。教育に関する勉強をしたい人にとっては、オンラインが主流となっている今は、以前よりも参加しやすい機会が増えました。

高等教育にとって厳しい時代がやってくることには、もはや論を俟ちません。そのような中で、「本学を選んでくれた学生たちの可能性をいかにして未来に向けて拓くのか」、そのような問いを胸に、都市大FD推進センターでは、一人でも多くの教職員の皆様が参画し、考え、学び合える「場」を提供し続けていこうと考えております。

2022年度 FD予定表

（諸般の事情で日程や内容が変更になる場合があります）

予定日		FD名	テーマ・内容
通年 随時開催：小規模学び合い型FD／MS Teams 駆け込み寺／WebClassのFDコース／SD PBLデザイン研究会（教育開発室主催）／ TCU-EFR賞			
4月	4日(月)	WebClassの基本的な使い方講座※	本学のLMS「WebClass」について基本操作の講習会
	上旬	TCU-EFR賞 テーマ発表	
	21日(木)	教育サポートスタッフ研修（1）	ティーチング・アシスタント等学生対象の教育支援力向上のための研修会（1）
	28日(木)	新任者研修※	本学の教育に関する概要、教育支援ツールや指導法、教育全般に関する意見交換
5月	9日(月)～13日(金)	教育フロントランナーに学ぶ協働型学び合いFD	TCU-EFR賞受賞者の教育ノウハウに学ぶ研修会
	16日(月)～27日(金)	第1Q 授業相互参観週間	第1クォーター授業の相互参観による授業改善
6月	1日(水)	第1回 学生FD懇談会	学生FD委員による授業改善に向けた懇談会（趣旨説明・委嘱状）
	17日(金)	自校教育セミナー※	創立100年に向けて　―都市大の歴史、建学の精神、教育理念と教育―
7月	1日(金)～14日(木)	第2Q 授業相互参観週間	第2クォーター授業の相互参観による授業改善
	4日(月)	授業設計・改善FD※	都市大のディプロマポリシーにつながる教育評価「都市大力」
8月	9日(火)	第1回 TP作成ワークショップ※	ティーチング・ポートフォリオ（TP）作成のためのワークショップ
	25日(木)～26日(金)	新任者研修※	本学の教育理念、授業設計、指導法、TP、教育活動に関する意見交換・懇親
9月	5日(月)	TP活用ワークショップ	（学科主任対象）TP活用のためのワークショップ
	16日(金)	全学FD・SDフォーラム（第1部）	全学教職員参加による、教育改革に関する教職協働のためのフォーラム
	20日(火)	教育サポートスタッフ研修（2）	ティーチング・アシスタント等学生対象の教育支援力向上のための研修会（1）
	21日(水)	第2回 学生FD懇談会	学生FD委員による授業改善に向けた懇談会
10月	6日(木)～19日(水)	第3Q授業相互参観週間	第3クォーター授業（授業の始め方）の相互参観による授業改善
12月	上旬	TCU-EFR賞 エントリー受付	学科推薦、エントリー、審査、選考、2月に表彰
	2日(金)～15日(木)	第4Q 授業相互参観週間	第4クォーター授業の相互参観による授業改善
	7日(水)	第3回 学生FD懇談会	学生FD委員による授業改善に向けた懇談会
	21日(水)	第2回 “ひらめき”シンポジウム	知識集約型社会を支える人材育成事業「ひらめき・こと・もの・ひと」づくり
2月	中旬	TCU-EFR賞 表彰式	
3月	9日(木)	第2回 TP作成ワークショップ	TP作成のためのワークショップ
	10日(金)	第4回 学生FD懇談会・協働FD※	授業改善セミナー:学生FD委員と教職員との授業改善に向けた合同懇談会
	24日(金)	“ひらめき”FD	知識集約型社会を支える人材育成事業「ひらめき・こと・もの・ひと」づくり

※印のFDには、新任の教員の皆様の受講をお願いします。

都市大版ティーチング・ポートフォリオの取り組み

本学では、ティーチング・ポートフォリオ（TP）の全学的導入が2020年度に決定し、取り組みが始まっています。

ティーチング・ポートフォリオ（TP）は、文章作成を通じた教育活動の省察プロセスとそれにより作成した文書の総称です。単なる教育業績リストとは異なり、日々の教育活動の実践を整理・省察することで、自らの教育理念を意識して、都市大での教育上の役割と責任を改めて考える機会とすることを目的としています。

さらに本学では、都市大教育の充実に向けて、学内の相互理解を深め、また学外には本学の教育の特徴を各教員の教育活動を通して知っていただくためのツールとしても位置付けています。

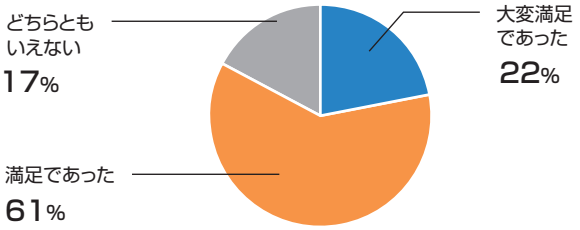
教育開発機構では昨年度、各学科のご意見もふまえながら都市大版TPの様式を決めました。その後、試行を経て、今年度は多くの教員に取り組んで頂けるように、8月と3月に作成ワークショップ（WS）を行いました。効率よく作成できるよう検討した結果、一日のWSで集中的にTP作成プロセスの解説を受け、その場でTPを作成するWSとしました。講師には、ティーチング・ポートフォリオ研究会 理事の北野健一先生（大阪府立大学工業高等専門学校 教授）をお迎えしてご指導およびファシリテートをしていただきました。参加者の多くがTPを完成させ、本学の教育紹介WEBページにて公開できることとなりました。

今後は、さらに都市大版TPの作成がしやすくなるような仕組みの確立や、メンター育成にも取り組んでいきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

個性豊かなTPが作成されました

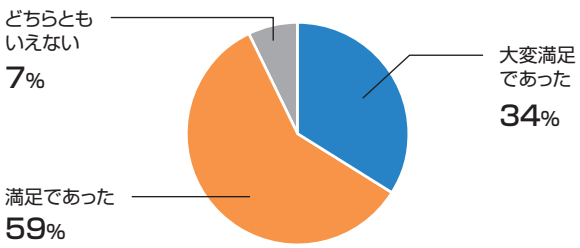
TP作成WS後のアンケート結果より

［都市大版TPの作成・改訂］



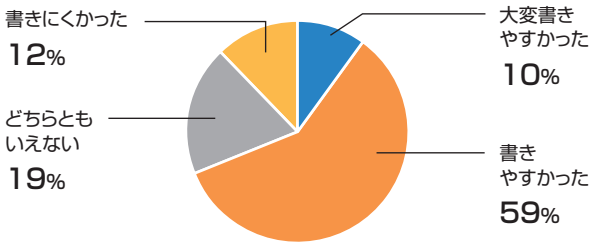
8月開催の作成WSでは、初めて作成した人と、改訂を行った人がいましたが、満足だったという感想が、83%の方より寄せられました。

［ピアレビュー］



作成WSで実施したそれぞれの活動にはいずれも80%以上の肯定的な感想をいただきましたが、特にピアレビューに関しては、93%という高い満足度が得られました。

［都市大版TP全体として］



総合的に都市大版TPの書きやすさに対しては69%より肯定的なご意見をいただきましたが、まだ様式やWSのあり方などに改良の余地があると考えています。

自由記述欄について

「自分の中で理念と方針の整理が難しかった」や「思いを理路整然とした文面にまとめることが難しかった」という戸惑いがあった一方、「具体から抽象化していくフォーマットが良かった」「自分の教育の理想やポリシーが客観視でき明確になってよかった」「他学科の先生との意見交換ができて有意義だった」などの感想も寄せられました。

都市大力の概要・概略について

教育アセスメント室長　京相 雅樹

経　緯

「都市大力」評価枠組みの源流は、学生中心の教育を実現するため、2018年度から検討を開始した卒業研究用標準ルーブリック策定のプロジェクトです。学修の集大成ともいえる卒業研究が、都市大のディプロマポリシー（以下、DP）を実現しているかが確認できる、全学共通の評価方法があれば良いのではないかというのがこのプロジェクトのスタートラインでした。2019年度には、ルーブリック案を全学的な協力の下で試用しました。その結果、卒研の評価だけではなく、全学DPを卒業時に充足すべき具体的な能力（知識、スキル、姿勢）に翻訳し、各学科がカリキュラムと対応づけた評価活動に使えるようにする必要があるとわかり、全学DPに基づく評価枠組み「都市大力」を構築する方向に方針転換しました。

都市大の教育目標を具体的な能力として表す

まず、全学DPの短く抽象的な文言を、その意図を損なうことなく、卒業時に備えている能力として具体的に表現する作業に着手しました。重要な点は、各学科の教育課程の総体により、最終的に全学DPが満たされるということです。もちろん、学部、学科のDPは、学生がやがて本学の卒業生として社会で活躍するために必要な能力を考慮して作られており、全学DPとの整合が図られています。しかしながら、教育課程を構成する科目の一つ一つの積み重ねがどのように全学DP充足に寄与しているかを明確化する手段は現在提供されていません。この課題を解決するため、全学DPから具体化した能力項目と各科目の教育内容とを対応づけることができるように、つまり、仲介役としての役目を果たすように整備を行いました。作業のポイントは、具体化した能力項目が全学DPの5項目を正しく反映し、かつ、各能力項目が互いに重複しないことでした。全学からの意見も取り込みながら何度も修正を繰り返し、現在完成に近いところまで来ています。今後は各能力項目を適切に評価できる方法を提供したり、学位取得で満たすべき能力レベルを定義したり、といった作業を行います。

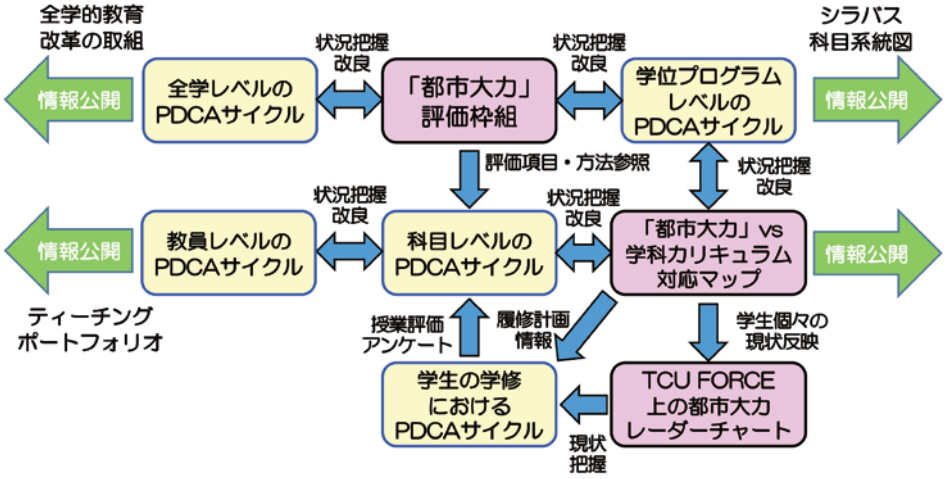
主体的学びを支援するTCU-FORCEと都市大力

同時に、本学のe-ポートフォリオシステム「TCU-FORCE」に表示される学生の能力可視化のためのレーダーチャートを、「都市大力」に対応させるよう更新します。学生はこのチャートを確認しながら、自身の学修状況について把握し、自身が必要と考える能力を強化するためにはどの科目を履修すれば良いか計画を立て、卒業までの学修についてPDCAサイクルを回してゆくことになります。

教学マネジメントの点検ツールとしての都市大力

都市大力は、教学マネジメントの点検ツールとしても活用できます。教育に関連する各レベルのPDCAサイクルと「都市大力」評価枠組みとは、下図で示した関係となります。全学レベルにおいては、「都市大力」評価枠組みにより教育改革の各施策の状況を把握し改善のサイクルを回してゆくことができます。学部・学科、科目レベルでは、「都市大力」と学科が提供する教育課程との対応マップを作成することにより、各科目が全学DPのどの部分を育てるのかといったことを検証することができます。個々の教員レベルでは、ティーチングポートフォリオとも併せて、自身の教育方針と、大学の方針や教授内容とのつながりの確認や、授業改善に利用できます。

このように、「都市大力」評価枠組みを中心として、様々なレベルでの状況の見える化を図り、円滑なPDCAサイクルの実現を目指してゆく予定です。



シリーズ 知識集約型社会を支える人材育成事業

2021年度「ひらめき」プログラムの総括

専用サイト
▶ https://hirameki.tcu.ac.jp

「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりコーディネーター
杉浦 正吾

1. 今年度のプログラム

今年度から開始した当プログラムでは、1期生に対し、ひらめきづくり(1)(2)、ことづくり(1)、ひとづくり(1)の4科目を開講しました。初年度である1年生の科目であることから、マインドセットとクリエイティブ(key:自己肯定感、ワクワク感、非常識、チャレンジ)、右脳左脳のハイブリッド(key:H型バウンダリー・スパナー、全体最適、領域横断)、社会とのつながり(key:スタートアップ／ベンチャーマインド、企業のメソッド)の3点を主眼とした授業をデザインしました。授業進行に伴い学生の声や振り返りに耳を傾け、[カリキュラム編成→シラバス編成→授業デザイン→授業実施→評価→改善]というサイクルを回しながら、各教員の異なった専門領域や知見を掛け算しつつ、授業の運営に努めました。

2. アドバイジング

随時の相談や質問のほかに、年間2回(9月と2月)、個別で20分の「1on1」面談を実施(今年度はオンライン実施)、9月の1回目はプログラム参加学生全員、2月の2回目は希望者を対象とし、教員と参加者での対話を行い、プログラム内容の相互理解を図ると共に、学生の成長につなげることを主眼におきました。この機会を通して、プログラム運営側と参加学生側の「目指したい方向」と「それに向けた成長感」を相互でポジティブに確認し合うことができ、プログラムの改良点も明確化され各授業に活かすことができました。

また、複数の学生から「自由参加のラボ」開設希望があり、10月～2月に月1回「ひらめきラボ」を試行しました。履修学生の1割程度が参加し、「来年度も継続したい／後輩も交えて交流したい／インターンなど実社会経験がしたい／ひらめきプログラム有志でビジコンなどに参加したい…」など積極的な声が聞かれました。

3. 持続可能なプログラムの展開に向けて

最後に、学生側からの「評価」を受ける意味も込め、ひらめきづくり(1)直後の6月と、今年度の全科目の終了直後の2月にそれぞれアンケートを行いました。同じ設問で「学生の意識変化」を検討し、結果としては、6月より2月のほうが多くの項目で上昇が見られました。特に「常識や当たり前になっていることに疑問をもつようになった」に関しては16%アップと顕著となり、他の項目も総合的に考えると「ゲームチェンジャー」志向に関する礎を作ることができたと考えられます。一方で、「ワクワク感」に関しては減少し、これは、「知的好奇心をくすぐるワクワク感」なのか、「単純に楽しい」のかといった、ワクワク感そのものの定義の問題を説明できる設問ではなかったためと考えられます。大学の学びを学生が誤解する恐れもあるため、単純な楽しさではなく、自ら主体的に深堀しながら、「学問」に対する知的好奇心を持ち、「学問」を学ぶ楽しさ、スキルの向上も含めた現象、事象、技術を理解し実践する喜びに関する評価軸を高めていく必要があると考えています。今後は、学年進行に伴い、上記観点に注意しながら、人材像である社会変革のリーダーを育成するため、教育を進めていく予定です。

	あなたは「ひらめき」の受講を通して、どのような点が成長できたと思いますか。 あてはまるものをすべてお選びください。	6月1日	2月7日	
1	常識や当たり前になっていることに疑問をもつようになった	51%	67%	↑
2	常識にとらわれずアイディアを生み出すことができるようになった	58%	57%	
3	他分野のアイデアをつなぐことができるようになった	41%	54%	↑
4	物事の本質に目を向けるようになった	34%	45%	↑
5	より幅広い視点で物事を考えられるようになった	45%	54%	↑
6	社会の問題に対して、自分なりの考えがもてるようになった	45%	54%	↑
7	専門性を社会課題の解決に生かす方法を考えるようになった	25%	33%	↑
8	多様な人と共創することで、自分もメンバーも成長できると思えるようになった	58%	55%	
9	ワクワク感を持ちながら主体的に学ぶようになった	63%	52%	↓
10	デザイン思考の基礎姿勢を理解することができた	51%	46%	
11	勉強は義務ではなく、自分の未来を広げる手段と思えるようになった	35%	35%	
12	将来の自分に必要な力が明確になった	26%	29%	
	n（電電通、機工、機シス）＝	99	84	

発行
東京都市大学 教育開発機構
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL：03-5707-0104(代) FAX：03-5707-2222 E-mail：efsg@tcu.ac.jp
お問い合わせ 担当事務局：教育支援センター